

最高峰の伯家神道を継承し初傳指導者養成を目指す貴重な講習会！

神祇伯御法（伯家神道）齋修会のお知らせ

【全6回（12日間）連続講義：第1回（2日間）講習】

前略 5回に亘って開催したご好評の「神咒（霊符）講座」は9月を以て修了します。神祇伯王家最後の伝法宗家・白川資長子爵は神社本庁参与を最後に昭和34年に神去られました。世相の危機に美徳の喪失を憂う神道神祇本廳では、その御神徳をお伝えすべく「神祇伯家神道齋修会」初傳指導者講習を開催致します。



公卿・白川家は花山天皇の御世に神祇の御勤めを仰せつかり臣籍降下。伯の一文字を賜り神祇伯（かむづかさのおさ）として神明奉仕の一方、多くの門人を育成。昭和11年には伯家神道を広く公開研修する「皇道齋修会」を設立されました。然し先の大戦でGHQの指令に抛り道統は四分五裂を余儀なくされました。現在では、高弟の先生方により各門派が設立。そのご神徳により、白川様の思いはいまでも脈々と受け継がれております。



私共は元号改正を前に卜占によって世の乱れを得てはこれを憂い、斯界研究機関、専門研究員各位とも共助しつつ伯家行法及び祭式の公開講習へと踏み切りました。今回の齋修会のご奉仕は永年に亘り伯家神道を学ばれてきた小松 篤平先生にお努め頂きます。自家こそ伯家の正統と主張する方々もおられます。然し、いずれの方々も全て白川様の御門弟です。本伝承者養成は旧来の垣根を越えて共に学び、諸派

の少数精鋭をして神道教化のご活躍を期待する命脈の講習でございます。ぜひご参加ください。敬具

- 第1回 10月 7日（日）・ 8日（月/祝）
- 第2回 11月10日（土）・11日（日）
- 第3回 12月 1日（土）・ 2日（日）
- 第4回（来春）1月26日（土）・27日（日）
- 第5回（来春）2月23日（土）・24日（日）
- 第6回（来春）3月16日（土）・17日（日）

神道神祇本廳 伯家神道傳承齋修会
 NPO法人「にっぽん文明研究所」事務局
 Tel:(045)481-9361.Fax:(045)491-7461
 e-mail : info@nippon-bunmei.jp
 （藤田携帯：090-5440-5513）

《記》

- ◎ 日 時：平成30年 10月 7日（日）・ 8日（月/祝）（2日間共・10.00am～5.00pm）
- ◎ 会 場：高円寺・氷川神社（JR・高円寺駅 南口。9時30分集合・白衣着用。昼食はご持参）
- ◎ 受講対象：上級講座修了者以上・神社本庁階位取得者・初学行法体験者・神職・各斯界有識者
- ◎ 参加費：第1回（2日間）¥40,000円。（6回分＝24万円：受講には全額お支払）
 （*優待等はありません。*欠席の場合は次回講習で一度のみ補充できる場合もあります）
- *白衣一式・笏・草履・岩笛・祓詞・大祓詞・筆記用具などは必ず持参してください。

参加申込書 《 Fax 送信 or 郵送返信用 》

お名前 _____ 第 _____ 期生（必ず記入）《*締切日：平成30年9月25日（月）》

ご住所 _____

電話・Fax _____ 《*定員になり次第締切ります！》

銀行 <<お振込み先>>（どちらかに〇印） 郵便局

みずほ銀行 横浜駅前支店 郵便貯金 総合口座
 （普）口座番号 2625114 記号 10210 番号 86331641
 にっぽん文明研究所 代表 奈良 泰秀 記号 10210 番号 86331641
 にっぽん文明研究所 代表 奈良 泰秀

小松先生からのご伝言



- (1) ご理解頂きたいことの第1項は、本講義は未公開の伝承や祭式、御法のお伝えを伴うため古儀に習い12日間出席は必須の条件となります。
- (2) ご理解頂きたい第2項は、かつて近衛文麿公に対し石井鹿之助先生（京都白峯神宮宮司）が十種神宝御法の修行道場及び祝部殿再興を記した一件綴を筆記。これにより神祇院が設置されることになりました。しかし遺憾にも GHQ の意向で計画は頓挫。信教の自由が許される現代に至り、私共は旧神祇院ならず現・神道神祇本廳を設立しまして、今回、初めての行法のお伝えとなります。

伯家神道伝道の要諦（絶伝の復活にご協力を！）

多くの貴重な御法が絶伝の危機に瀕しております。私たちは、世界最古の皇室を戴く日本人として、この貴重なお伝えを絶やすことがあってはなりません。例えば下記に掲げられる事柄は一部勅祭社を除いて齋行されることが少ないこと。また、神道系大学でも伝えなくなったことから絶伝する可能性が高く非常に深刻です。民族の財産なれば、ぜひとも御感心を賜りたく存じて已みません。

【絶伝が危惧されます！】

- 1) 三種之祓 古儀
- 2) 大中臣祓 古儀
- 3) 裂布・解縄御法
- 4) 返 祝 詞
- 5) 玉串奉奠と玉串奉齋
- 6) 御阿礼（～阿知女神事へと取次ぎ）
- 7) 太御手座所作（御開扉の御前にて執行）
- 8) 息吹祓 拍手の祓 切火之祓 火錘
- 9) 神籬と警蹕岩笛
- 10) 息長之法（現 息吹長世之法）
- 11) 人型、形代（呼称と用い方とも間違い）
- 12) み占奉仕
- 13) 波波迦のト占（布斗麻邇の意）
- 14) 忌串調整（桃木）
- 15) 小幣調整（桃木）
- 16) 神饌案（桃木編）
- 17) 祝詞奉奏（声調と息吹）

【講師プロフィール】 小松 篤平（こまつ あつひら）。

社家出身の精神心理学者、医学博士。欧州・香港・中国で勤務医として滞在。在留邦人の故郷の習慣を求める姿に応じて祭式奉仕に任じる。2013年に永久帰国。海外のホスピメンタルの経験から、人の生き方には総て役目を担っていることを感得。かつて学んだ神道にその真実を求める。帰国後都内にメンタルクリニックを立ち上げ、かねてより学んできた伯家神道の一部教伝を始め一方、折に触れ、自らも学徒となつては、各位の門を叩き下座に学びつつ今日に到る。



※ 最近、伯家神道を称される方に祝詞が書けない方が増えています。時代がその様にしてしまいました。元より、聖上のお努めにご奉仕される以上、御下命に即し、あらゆる御祈願に対応した祝詞作文は必須です。

【御法のお伝えについて】

清祓、反閤、初之座、中結比、太結比、多治比、四方固、比礼之所作、祝星恵方取、祝部、など極めて多岐に渡ります。お伝えの手順は、当日参加者の方のみにお配り致します。

なお宮中に「御簾内の行」というものは存在しません。かつて近江神宮にて生み出された所作でございます。